

## 2023年度活動方針

1. 和白干潟環境教育プログラムによる「自然観察会」、「クリーン作戦と自然観察」「和白干潟まつり」「学習会などの企画」を通して、多くの市民、特に若い世代や子どもたちに和白干潟の自然の大切さを認識してもらい、自然保護の気運を高める。

- ① 和白干潟の自然環境教育を広げる和白干潟を守る会の活動は、今年創立35年を迎える。2013年日本ユネスコ協会連盟第5回「プロジェクト未来遺産」に登録され、100年後も自然を守る子どもたちを育成することが期待され、責任も担っている。保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学、各種団体からの依頼による和白干潟「自然観察会」の環境教育が広がっていくよう働きかける。
- ② ガイドの育成確保、スキルアップに取り組む。  
ガイドの高齢化に伴い育成と確保に取り組む。観察ガイドの知識向上と共有化を図るためにガイド講習会を継続する。
- ③ 「和白干潟のクリーン作戦と自然観察」を継続し、参加者の広がりを進める。  
保全活動への参加者を増やし、参加者との交流を進める。ボランティア体験が広がり、プラスチックごみ問題が社会化した機運もあり、「クリーン作戦と自然観察」が評価されている。企業の社会貢献活動として継続参加される企業、高校、大学生や様々なボランティア団体、個人も増えてきた。企業独自の企画依頼もある。守る会会員の環境保全活動だけでなく、市民誰もが環境保全に貢献した、という実感の伴う活動であるよう、守る会としてサポートする。
- ④ 「和白干潟まつり」を継続し、市民参加を広げる。  
野鳥の飛来する季節に開催する和白干潟まつりは、和白干潟の大切さを身近に感じてもらえるイベントとして35回目を迎える。昨年は飲食物を出さないなど感染対策をとって4年ぶりに開催することができた。しばらくはコロナウイルス感染状況を見極めながら、引き続き和白干潟まつりの魅力をアピールしてより多くの市民に参加を呼びかけると共に、必要に応じて内容の見直しをする。
- ⑤ 和白干潟に関する学びの機会をつくる。  
講演会、見学会、写真展等を通して市民が和白干潟の価値と保全の必要性を学ぶ機会をつくる。また、寄贈された「和白ひがた文庫」の活用を引き続き図る。

2. 和白干潟の大切さと保全の必要性を広く社会に訴えるため、和白干潟を取り巻く自然環境の変化について、干潟及びその周辺の生物の調査、漂着ごみ調査などの活動を継続し、調査結果を公表する。

環境省やバードリサーチ、JEANなどと協力しての鳥類調査をはじめ、底生動物、水質、砂質などの調査、漂着ゴミの分類調査も継続して行う。調査データは和白干潟通信やホームページで公表していく。

3. 貴重な鳥類をはじめとする生物多様性に富む和白干潟を「ラムサール条約登録地」とするための取り組みを強化する。博多湾の自然を壊す人工島などの公共事業には厳しい監視と関心を持って対処する。今ある自然を壊さないこと、壊れた自然は元の自然に戻すことを目指す。

和白干潟の生態系を守るために、山・川・海の流域連携に取り組む、地域の自然再生への取り組みを進める。和白干潟を守る会の活動をより広く知ってもらい、活動への参加者、賛同者を増やすために広報活動を強化する。

- ① ラムサール条約登録を目指し、行政、議会、市民に向け活発な活動に取り組む。
- ② 福岡市、福岡県の環境政策、公共事業に対し、情報収集、調査、学習、意見交換、提言に努める。
- ③ 「山・川・海の流域会議」の他団体と連携して立花山・唐原川・和白干潟の保全活動や観察会などに取り組む。
- ④ 会員の高齢化に伴い、和白干潟を守る会の運営を見直し、スタッフの確保、活動の継続に努める。気軽にボランティア参加できるようHP等を活用し、情報提供などに努め、定着化を図る。